

抱負宣言



北広島医師会
さいとうクリニック

石黒 絵里

新年明けましておめでとうございます。何度目かの年女を迎えることになりました。干支が「亥」。猪突猛進…突っ走るイメージの強い中、少し気が引けますが「今年も走る！」と新年の抱負に立てたいと思います。

約2年前に北広島市で父の跡を継ぎ、クリニックを開業しました。昭和45年頃造成された団地地区の高齢化が顕著で、戸建ての管理や除雪が難しくなり街を離れる方も多いです。また、坂の街でもあり、徒歩での通院が難しくなり、往診となる方もおられます。一方、その坂を闊歩され、診察時に「毎日歩いている」「駅まで行き来したら7,000歩よ」など、お元気な方も多く、運動不足気味な自分を恥ずかしく思うようになっていました。

そんな矢先の昨年、小学生の息子が親子マラソンへの出場を誘ってきました。彼は今まで夫と一緒に出場してきましたが、親子マラソンへの出場資格を超える年齢に近づき、最後に私と走りたいということです。「子供のためだ。よし、走ろう！」と、北広島ロードレース3km親子マラソンへ向け、練習開始となりました。

昼休みにクリニック周辺を走り始めた訳ですが、何せ坂の街。上っても下っても辛く、歩いては走りを通りかかるところからでした。帰院すると汗だけで、白衣に着替えても顔は真っ赤のまま、鏡を見て笑ってしまいました。それでも続けていくと体も慣れ、休みの日には本番コースを走るように。「ゴールが見えない」と自分との闘いは続き、ついに完走できるようになった頃、息子を誘って走ってみました。すると息子は軽く走りきり、まだ行けるとのこと。「あ～足は引っ張れない」と思い、また練習の日々。甲斐あって大会は完走し、初めてにしては成績もまあまあ。息子と手をつないでゴールできたことが嬉しく、また、夫のタイムを抜いたので少し優越感に浸ることができました。

気分を良くした私は、もう一つ大会に参加する気になり、大会を探しましたが、ほとんどのエントリーが終了しており、唯一出場可能なものが5kmコース。無理かとも思いながら家族に出場を宣言。優越感をかもしだした手前、後戻りもできず再びひたすら走ることに。そのうち、JR千歳線に併走するサイクリングロードの北広島～上野幌駅間を完走できるようになりました。まさか自分がそんなに走るようになるとは思ってもみず、快速列車からの見慣れた風景も違って見えました。

大会当日の早朝、旭川へ出かけていきました。知

らないコースを走るのはドキドキしましたが、声援に助けられ完走。走り終わると爽快な気分となり、普段の練習時の勾配が自分を鍛えてくれていたことに気付きました。

坂の街も良いかもと、少しは身をもって患者さんに運動を勧めることができそうです。宣言も功をなしているようなので、この場を借りて新年の抱負を宣言させていただきます。「今年も走るぞ！」

還暦にして 野原に立つ



札幌市医師会
札幌センチュリー病院

坂本 尚

昨年の夏、虫捕りに通った。孫と？ 否、年長組のひとり息子と。別に虫好きではないし、虫のことは知らない。ただ、行かないとちょっと厄介なことに…。息子も年長組になると体力もあり、相撲十番真剣勝負も、夕食後のほろ酔い加減の自分には辛くなってきた。何とか日中、体力を消耗させ、早く寝させる手立てはないものか…。

休日、朝から1時間かけて札幌郊外へ。息子は蝶を追う。必死に走る。

「走れ！ 走れ！ 必死に走れ！ 楽しんで捕れると思うな！」

大人はずるいもの。偉そうに自分ができないことを平気で言う。自分が蝶を追いかけたとき、やたら四方八方、網を振りかざし、とうとう足もつれて転倒、妻の失笑を買った。

圧巻は、大物、体長10cm余りのギンヤンマ。蓮の花咲く池を周遊している。やはり大物は違う。悠然と飛び、小ざかしい飛び方はしない。だから容易に捕まる。網の中でバチバチバチと、ちょっと怖い強い羽音を立て、一点の曇りもない大きな複眼で自分を睨む。口を大きく開け、噛まれれば相当痛そう。「なんで俺を捕まえる！ 早く放せ！」。これはもう虫の範疇ではない。強い意思を持つ生ける者だ。その大きな複眼に自分はいくつも写っているのだろう。虫かごに入れても、バチバチバチと強い羽音を響かせ「放せ！ 放せ！」と怒り心頭のように。

夕刻が迫り、帰り際、息子に決まり文句。「虫を放そうね。虫のお母さん、お父さんが待っているから」。何のことはない。家で飼うのは面倒だから。自分が小さい頃、全部家に持ち帰ったけれど…。帰路の車中、息子はウトウトと睡魔と闘う。よしよし、目的達成！ 今日は早く寝そうだ。

自分は若かりし頃、子供はおろか、結婚にも全く関心はなかった。還暦にして息子と野原に立つ。人生は不思議なものだ。息子よ、お父さんは今日も楽しかったよ。ありがとう。